

企業名： 王子ホールディングス

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

王子ホールディングスが目指す姿はその経営理念からおおまかに理解することができる。王子ホールディングスが掲げる経営理念とは「革新的価値の創造」、「未来と世界への貢献」、「環境・社会との共生」である。そこでこれらの経営理念を一つずつ詳しく見ていきたいと思う。

一つ目は「革新的価値の創造」である。王子ホールディングスの「革新的価値の創造」への説明には「画期的な新製品の開発と、それを導く研究・技術開発。また、組織の仕組みや、従業員一人ひとりの行動に変革」とあり、どのように革新的価値を創造していこうとしているのかが簡単に説明されている。また、王子ホールディングスが2019年から2021年度の中期経営計画として掲げたものの一つに「イノベーションの推進」という一つ目の経営理念とつながっていると思われる計画がある。そして、「イノベーションの推進」の振り返りとして「新たな素材開発を進め」とあることから、具体的にどのように「革新的価値の創造」を進めていこうとしているのかをある程度うかがい知ることができる。

二つ目は「未来と世界への貢献」である。この経営理念に対する説明には『積極的なグローバル展開を通じ、あらゆる国・地域・社会に「革新的価値」を提供し、新しい未来を想像する』とある。また、一つ目と同じようにこの経営理念と関連していると思われる中期経営計画には「海外事業の拡充」があり、その振り返りにはアジアを中心に新たに段ボール工場を新設したことなどが書かれており、どのように進めていこうとしているのかを知ることができる。

三つめは「環境・社会との共生」である。この経営理念の説明には「広大な社有林の多方面での活用、各製造現場における環境負荷低減策などを通じ、私たちの事業そのものが持続可能な社会に貢献できるよう」とある。さらに詳しく見ると、この経営理念と関連して「環境ビジョン2050」・「環境行動目標2030」の制定が紹介されており、経営理念の具体的な方向性を見ることができる。

以上からこの会社が目指す姿が理解できるかどうかを考えると、会社の掲げる経営理念によっておおまかには理解できるものの、その説明が短い為に抽象的でわかりづらい部分があると思う。特に二つ目の「未来と世界への貢献」に関しては「新しい未来」とはどんな未来なのかがわかりづらいと感じた。また、実際にどのようなことを行っているかについての説明も少ないところがあるため、読者にとってはさらに想像が付きにくくなっている部分があるだろう。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

王子ホールディングスに競争優位性を知るために王子ホールディングスが展開する事業内容を見たが、この統合報告書からは競争優位性は理解しにくいと感じた。その理由は主に二つある。

一つ目は、王子ホールディングスが展開する事業のほとんどが私たち一般消費者ではなく企業を対象としたものであるため、私たちへの直接的な影響を考えにくいという点である。生活産業資材事業や生活消費財事業においては、私たちも普段から使用する紙袋やティッシュなどを生産しているため、それらが無くなった場合の影響を考えることは比較的容易であろう。しかし、機能材事業や資源環境ビジネス、印刷情報メディア事業などほかの事業は、私たち消費者と直接的なかわりが薄いため競争優位性が理解しにくい。

二つ目は、他社との比較や自社製品にどんな特異性があるのかについての説明が少ないことである。一つ目にあげた理由があったとしても、他社との比較や自社独自の技術があるのかどうか記載されていれば競争優位性を理解することはできるだろう。しかし、この統合報告書にはそのような説明が少ないと感じる。

以上二つの理由から、王子ホールディングスの競争優位性をこの統合報告書から理解することは難しいと感じた。しかし、印刷情報メディア事業の中の新聞用紙事業では国内シェアの約 30%を占めることや、王子ホールディングスの有名な商品ブランドである「nepia」は環境に配慮した商品であることが記載されていることなどから、王子ホールディングスには競争優位性が確かに存在することを知ることができる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

そもそも競争優位性が理解しにくいと、その競争優位性の持続性も理解することは難しい。2番で上げた二つの競争優位性についても詳しく説明が記載されているわけではないので果たしてそれが持続性を持つものであるかどうかまでは知ることができない。ただ、王子ホールディングスは経営理念に「革新的価値の創造」を掲げているため、自身がもつ競争優位性の持続よりも継続的に新たな競争優位性を生み出すことを重視しているのかもしれないと感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

王子ホールディングスで人的資本の価値向上を達成できると思うかどうかについて、二つの視点から考えてみたいと思う。

まず、会社の設置する人材育成プログラムの面から考える。王子ホールディングスは海外にも多くの拠点を持っているため、人材育成においてもグローバル人材を育成することに積極的に取り組んでおり、そのためのプログラムも四つほど設置されている。そのうち三つのプログラムが海外拠点で実務を経験するというようなものだが、それらのプログラムに参加するには条件があり、また海外勤務の期間も比較的短く設定されている。一つを例に挙

げると、対象者は入社5年目から10年目の人で海外勤務期間は2年だという。私は2年の海外勤務でグローバルに通用するスキルを身に着けるのは難しいのではないかと思う。さらに、例えば23歳で入社したとすると入社五年目時には28歳になっており、家庭を持つことなども考えるようになる年齢だと思うので、実際に参加できるのかどうかもわからない。グローバル人材育成以外にもいくつかのスキルアップのためのプログラムはあるが、どれも参加資格のハードルが高く、早いうちからスキルアップを目指す人には適さないプログラムであるように感じた。

次に労働環境の面から考える。王子ホールディングスは総労働時間の削減に取り組んでおり、2013年から2020年までで11%の削減に成功している。また、高度の専門知識を有する研究員には研究に集中できるような働き方の制度を設けており、従業員の健康維持への取り組みも積極的に行っている。そのため、仕事に集中して取り組むための労働環境は整備されていて、仕事を通じたスキルアップは望めると考える。

以上の二つの点から、考えると王子ホールディングスで人的資本の価値向上をすることはできるだろう。しかし、人材育成のために設置されているプログラムは少し参加するためのハードルが高く、プログラムの内容も十分にスキルアップすることが期待できる内容ではないように感じる。そのため、人的資本の価値向上を達成することは難しいと考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

王子ホールディングスの統合報告書2021はところどころ図やグラフが挿入されており、色なども使うことで見やすくまとまっていた。しかし、いかに二点改善すべき点を挙げようと思う。

一つ目は、経営理念についての説明をもう少し詳しく掲載することである。なぜなら会社の目指す姿がわかりづらかった理由に経営理念の説明不足があるからだ。具体的には経営理念と中期経営計画の間にどのような関連があるのかを図で示し、中期経営計画の下で具体的にどのようなことを行っているのかを示すのがよいと思う。

二つ目は、国内シェアや自社商品の特異性などの情報をもっと入れることである。なぜなら、これらの情報が欠けていたために、王子ホールディングスの商品がどれだけ私たちの生活に影響を及ぼしているのかがわかりづらかったからである。これらの情報を入れることによって、王子ホールディングスの競争優位性がより明白になると考える。

以上二つの点を改善すれば、理解しづらかった会社の目指す姿や競争優位性がわかりやすくなり、統合報告書としての精度もあがるだろう。

以上